

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101424		
法人名	有限会社 シルバーケアサービス		
事業所名	グループホーム 寿楽寺番館		
所在地	栃木県宇都宮市鶴田町2854番地 (電話)028-614-1771		
自己評価作成日	平成 22年 12月 21日	評価結果市町村受理日	平成 23年 2月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成 23年 1月 27日	評価確定日	平成 23年 2月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宇都宮市中央公園の南に位置する閑静な住宅街にある2001年開設の事業所です。フレンドグループに属しており、グループの主催する毎月の研修会に参加し、サービスの質の向上に努めている。医療面では在宅医療に力を注いでいる主治医の協力と、訪問看護による24時間医療連携の対応が取られている。福祉車両を備え、車椅子の方も負担なく外出できる。毎年家族と共に一泊温泉旅行を企画している。自治会にも参加し、開設時より飼っている犬に会いに来る近隣の方も多しなど、近隣と良好な関係を築いている。昼間だけでも家族と一緒に過ごしたい、というような利用者様の個々の願いを大切に、送り迎えの対応をしている例もある。季節の行事を大切に、餅つきなどは家族と近所の方も参加してくれる。また七夕の竹は家族に準備をお願いし、入居者の方数人と頂きに行ったりもしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宇都宮市に最初に誕生し、開設10年目を迎えたグループホームです。高齢者を人生の先輩として敬い、一緒にゆっくり楽しく、笑顔で過ごせるような支援を理念に掲げ実践してきました。2007年からはフレンドグループの傘下に入り、グループ内の研修によるスタッフのレベルアップが図られています。自治会に加入し地域の一員として活動すると共に、運営推進会議や避難訓練、更に行事へ近隣住民の参加協力などもあり、地域と良好な関係が保たれています。在宅医療に重点を置いている協力医の往診が毎週あることと、24時間看護師の対応が可能なことなどの医療連携体制が、利用者や家族の安心に繋がっています。看取りに関しても指針を作り対応しており、理念を大切にして、家族のように最後まで関わっていききたいというスタッフの思いが日々の実践状況を通してしっかりと伝わってくる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一緒にゆっくと楽しくをモットーに、地域の方々との関わり合いを持ちながら、毎日笑顔で過ごせるように」をテーマに全職員の思いを込めた理念をかかげ、実践に繋げるよう毎朝唱えて確認し、勤務に就いている。	利用者が望む介護の姿をイメージして、設立当初に職員全員で考えた理念であり、「楽しく笑顔で」がキーワードとなっている。実践に繋げるため、より分かり易い言葉で、「スタッフとして」というタイトルの6項目の行動指針も設定し、毎朝全員で唱和して共有している。	設立以来の理念を大切にし、実践に向けて取り組まれていることが窺えます。設立時を知らないスタッフも増え、日々新たな気持ちで理念に向き合うためにも、研修テーマにするなど、共有に向けた更なる取り組みも期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の一員として交流している。寿楽のお知らせ等も自治会の回覧板に回してもらい、事業所の理解を深めてもらうようにしている。運営推進会議には、地域の方々々が毎回参加して活発な意見を下さる。	自治会に入り地域の一員として活動し、班長に運営推進会議へ参加してもらっている。避難訓練への参加の申し入れがあったり、行事への参加依頼にも協力的で良好な関係が築けている。近隣は高齢者も多く、介護に関する相談など、地域への啓発活動もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に、地域包括支援センターの方に認知症について講演して頂き、地域の方にも認知症に対する理解をしてもらう取り組みなどを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター、地域の方の参加により活発な意見が出て話し合い、サービス向上に活かしている。特に非常時の対応に関する議題など話し合われている。	利用者・家族、地域包括支援センター、民生委員、近隣住民などの参加で、今年度は4回計画したが、3回開催予定である。事業所からの報告、近隣住民からの意見要望など、活発に討議されている。避難訓練への住民の参加申し入れなど、サービス向上に繋がっている事例もある。家族の参加が課題となっている。	近隣住民が事業所に興味があり、協力が得られています。課題である家族の協力に繋げるためにも、議事内容の事前配布、議事録の配布など情報発信を通して関心を高めるような対応を期待します。併せて年間6回の開催も期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の主催の研修に必ず参加している。市の担当者に利用者の状況を説明し、理解を求めている。特に入退院等に関する報告や相談をし、連携をとっている。	届出などの訪問時には、事務的な連絡だけではなく、担当者に時間を取ってもらい、状況報告や相談をし、アドバイスを受けるなど、連携を取っている。市主催の介護に関する研修会などには積極的に参加し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加している。利用者の個々の願いに応えられるようスタッフの配置をしており、スタッフ間で業務がスムーズに流れるよう気をつけている。玄関は構造上、急なスロープな為施錠し安全を確保している。	「本人の苦しみ・辛さ・不安を受け止める」が「スタッフとして」の行動指針に示されており、その気持ちを大切に支援している。帰宅願望の強い利用者には寄り添って対応したり、2階の利用者は安全確保のためにスタッフが連携して見守るなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの周知・徹底し常に意識付けをしている。スタッフ同士が注意して、声掛けや対応に気をつけている。スタッフ同士も何でも相談しあってメンタルケアを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が事業所のスタッフに内容を伝えて周知させるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い理解・納得をしていただいている。また、不明な点がある時はその都度聞いて頂けるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議・行事(旅行等)に参加して頂いた時に、意見や希望を自由に発言できる状況を作るよう配慮している。	12月の運営推進会議には利用者・家族の参加があり意見や要望を述べてもらった。面会などでの来訪時や、行事に参加してもらった時などに積極的に話をする機会を作り、意見が潜在化しないよう配慮しているが、現実には家族からの要望などはほとんど聞かれない。	家族からの声あまり聞かれないという現実はあると思いますが、現在発信されている利用者の様子などをより充実させるなど工夫して、家族の関心の高まりに繋がるような取り組みを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聴く体制を作りいつでも、話しやすい状況をもっている。	月一回の定例ミーティングでは、話し易い雰囲気を作り意見の吸収に努めている。また日頃もコミュニケーションを密にして、個別にも悩みや相談を聴くように心掛けており、得られた意見や提言は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの状況に応じ希望を取り入れ、無理のない勤務体制にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回社内研修が本社であり全スタッフが順番に参加している。参加後は職員会議のときに研修内容を報告して、全スタッフに徹底している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、定例会へ参加して、情報交換やケアの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居見学や病院等に訪問して、入居前に何度か顔を合わせ、関係作りをしている。面接は十分に行い、本人・家族の意向を聴きながら安心して過ごせるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や現在困っている事を良く聴き、納得してから入居して頂いている。ご利用者様とご家族様も良い関係が築けられるように気をつけている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様とご家族様の要望を聴き、グループホームの入居が最適なのか見極めてサービスに努めている。また担当ケアマネやソーシャルワーカーの意見も聴いている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様を人生の先輩として敬い、それぞれの出来る事・希望される事を汲み取り、役割もって生き生きとした生活が送れるように支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の様子を随時家族に報告すると共に、家族の方にも協力していただきながら共に支援するように、相談や助言などもしている。また、ホームでの様子の写真などを一緒に見ていただいている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の訪問以外にも親戚の方や友達にも面会に来ていただいている。お正月やお盆には家族に声掛けをして、外出や外泊をすすめている。	本人との会話や家族との話から馴染みの人や場所を聴きだし支援をしている。具体的には知人の面会時の世話や、知人宅への送り迎え、馴染みの場所に同行するなどしている。盆と正月は一時帰宅の協力を家族に依頼し、外泊する利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じてスタッフが間に入り、ご利用者様同士が良い関係が作れるよう支援している。また、無理なくみんなで楽しく過ごせるようなレクリエーションの声掛けをしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方との交流は基本的にはないが、自治会の行事等でご家族様に会うことはある。また、以前入居していた親戚の方が近所にいる為、運営推進会議に参加してくれている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションを通して希望や意向の把握に努めている。ご家族との聴き取り等も参考にしてサービスを行っている。	理念のキーワードである笑顔を大切にするために、個々の願いが叶えられるような支援を全員で目指しており、コミュニケーションをしっかりとって思いや意向の把握に努めている。利用者の高齢化に伴い意志表示が十分出来ない傾向にあるが、表情や仕草から読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族からの聴き取り又、ご利用者様の日常の会話の中で気づいた情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の日常の生活・動作・表情を観察し心身の状態を把握し個々にあったペースで生活が送れるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議のサービス担当者会議の中で意見を出し合って介護計画を進めている。また主治医の往診時ご家族にも立ち会っていただきドクターや看護師・ご家族の意見も反映している。	本人・家族の意向に沿った日々の支援状況から課題を明確にして、短期長期の目標を定め、1週間単位の計画に具体化した介護計画を作成している。計画の実行をモニタリングするなかで、毎月の担当者会議や主治医、家族などの意見を反映しながら、定期及び状況に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で気づきや変化を個人記録に記入している。特記事項等は、日誌や申し送りノートを活用し全スタッフが共有し、たケアに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の個々のニーズに応じて、外出(買い物等)の支援、ご家族宅への訪問の送り迎えなど適宜対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の小学校の運動会・自治会の体育祭・敬老会への参加をしている。又、散歩時にはご近所の方と挨拶や会話等をしている。ホーム内の行事にもご近所の方に声掛けをして参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療を行っているひばりクリニックの高橋Drが主治医になり毎週金曜日に往診に来ていただいている。急変時には、訪問看護と24時間連携を図っておりDrにも報告され適切な医療が受けられる。ニーズにあった診察が必要なときは他の病院への紹介状も書いてくれる。	本人・家族の了承のうえ全員が協力医をかかりつけ医として受診している。毎週往診があり、1階、2階の利用者が隔週で診察してもらっている。状況によっては専門医の紹介を受けたりしている。更に医療連携加算体制による24時間の訪問看護との連携は家族にとって大きな安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護「ここあ」と密に連携を図り協働している。急変時やターミナルケア等24時間対応をしてもらい指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ご家族様を交えて医師・看護師と相談や情報交換をして支援すると共に、医療機関との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望を聴き、Dr・看護師・ケアスタッフとの話し合いをもちご利用者様にとって一番良い方向を確認しながら支援をしている。看取り介護の指針も定め取り組んでいる。	終末期の対応についてどのような希望にも沿えるよう体制を整えており、本人・家族の希望も確認しながら方針を共有し支援をしている。具体的には看取り介護における指針や同意書を作成し、主治医や看護師の指示を受けて支援を行っている。開設時から行ってきた対応で、スタッフも看取り知識と経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルがあり全スタッフに周知徹底し、いつでも対応できるよう意識付けしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を実施し意見や指導を受けている。又その際に、近所の方にも協力をして頂き避難訓練に参加してもらっている。	今年度は9月に避難訓練を実施し、2回目を3月に予定している。2階からの避難経路が内部のやや急な階段しかないという課題があり、近所の方の応援が不可欠との認識を持ち、協力を働きかけて訓練へ参加してもらっている。スプリンクラーも近日中に設置予定になっている。	当初から課題とされている2階からの避難経路について、多方面にわたり改善策を検討された経過はあると思いますが、未だ効果的な改善に至っていない現実があります。利用者の安全確保のためにも最重要課題として改善策を検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を大切に声掛けを心掛け、常に相手の立場に立って考えた介護が出来る様、業務に就く前に「スタッフとして」という6項目の心がけを唱えている。	利用者と一緒に生活を楽しむことが理念の実践であるという意識を共有して、1人ひとりを尊重した支援を行っている。利用者個人に合った対応の仕方をスタッフ間で意見を出し合いながら共有したり、プライバシーに関する話は個室で行うなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご利用者の変化に気づき、何を訴えているのかを察し、その方らしい生活を送れるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者主体の生活を送れる様に心掛け、個々のニーズに応えられる様に人員を配置し、職員会議では一人ひとりのその方らしい生活が出来る様話し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には本人の希望の洋服を着てもらおうようにしている。意思の決定が出来ない方には、可能な限りご家族から本人の好みを引き出して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方にはテーブル拭きや後片付けなど手伝ってもらい、スタッフと一緒に食事を取っていただいている。時には外出に出かけて気分を変えたり、おせち・恵方まき・花見・十五夜・・・など季節を感じるメニューで食事を楽しんでいただいている。	食材宅配業者からの食材をスタッフが調理して提供している。テーブル拭きや、食器拭きは可能な利用者に声をかけて手伝ってもらっている。変化をつけるためにバーベキューや、季節の行事に応じた独自メニューにしたり、外出などを行い食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取のチェックを行っている。献立については、食材の業者により栄養面・カロリーも管理されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアを職員が付き添って行っている。夕食後、義歯の方はお預かりをして洗浄剤につけておく。必要に応じて訪問歯科の往診に来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを利用して個々の排泄パターンを把握して定時で声掛けトイレ誘導を行っている。出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。	バイタルチェック表の日々の排泄実績から排泄パターンを把握して、そのパターンに応じた声かけを行っている。おむつ着用の方も若干名いるが、全員に対しトイレ誘導による排泄支援を行っている。便秘気味の時には食事に配慮するなどの対応もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を必ず付け排便状況の把握をしている。水分・食事摂取量・運動(散歩)等につけて便秘の予防を心掛けている。また、訪問看護と連携を図り排便を調整していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般欲と特浴がある。個々の体調や希望も取り入れゆっくりと入浴して頂けるよう支援している。また、入浴剤入りやゆず湯など変化をつけて楽しんでいただいている。	風呂場は一ヶ所であるが、浴槽は2個あり、片方にはシフト座式の昇降機を設置し、利用者のADLに合わせて使い分けている。入浴日は週3回設定しており、希望の時間に入浴をしている。入浴を嫌がる利用者もいるが、湯船に浸かるまでのことなので、話題を変えるなど工夫して脱衣所に誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者を尊重し、自発的に就寝できるようにしている。日中も身体状況に応じて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は決められた所に保管し薬の情報と一緒に個別に収納している。症状の変化により投与方法等に変更が生じた場合は、申し送りノートに記入し全スタッフが把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に添った行事を行い、食事やおやつを通して季節の変化を楽しんでいただけるよう工夫をしている。また、ご利用者も一緒にお手伝いできる場所は協力していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近くの公園に散歩へ出かけたり、希望者は近くのスーパーに買い物に行ってもらったりしている。近所の方と出合った時は挨拶を交わし普通に会話が出来、地域の方と同じように生活を送っている。	近所への散歩や買い物など日常的な外出支援は状況に応じて行っている。季節に応じて花見やドライブ、初詣などの外出支援もしている。家族同伴の一泊旅行は、昨年引き続き今年も実施し好評であった。帰宅や、知人宅訪問など個別の要望にもスタッフの時間をやりくりして対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に買い物支援をしている。ご本人のお小遣いとして預かっているものから好みの物を購入していただいている。高額な物は家族と相談して一緒に外出するなどして、買い物をする機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望がある時にはご家族に電話をして、会話ができるように支援している。年賀状をご利用者と一緒に作成してご家族に出すような支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間には季節を感じられるよう、掲示物や飾り絵をご利用者と共に楽しみながら作成して張り出したり、散歩の時に季節の花を摘んでホールに飾ったりしている。常時室内の温度と湿度に気を遣い、快適に過ごせるようにしている。	旧社員寮を改修して使用しているため、コンパクトで機能重視の作りになっているが、工夫して居心地良く過ごせるようにしている。利用者が多くの時間を過ごす食堂兼居間は南側テラスに面しており、天気の良い日はそこでお茶を飲んだりしている。共同制作の貼り絵や写真が飾られ家庭的な雰囲気が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者間の相性に配慮した席を設け、気の合った方と穏やかに過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご利用者の使い慣れたもの・今まで使用してきた物を置くようにして安心して過ごしていただける環境づくりをしている。(鏡台や仏壇を居室に持ち込んでいる方もいる)	1階に4部屋、2階に5部屋配置され、全て南向きである。各教室にはクローゼットと低い棚が作り付けになっている。今年度は、2階の和室を洋室に変更し、入り口の段差をスロープにした。ベッドと布団は全員リースしているが、それぞれに気に入ったものを持ち込み思い思いの空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を案内する矢印や居室の表札など安心して自立した生活が送れるように整理している。見守りを重視したケアをしている。		